男女共同参画社会をめざす広報誌

ひらく

一点を支点としてひらく／窓・扉をひらく／道をひらく／口・目をひらく／花がひらく／運をひらく／文化をひらく／インターネットをひらく／新聞・本をひらく／講座・会をひらく

―― 未来をひらく、心をひらく ――

特集 小川パレットってどんなところ？



2026.10

59

ふれあい下水道館の下水管です（7ページ参照）

特集

11月1日、小川パレットができます

小川パレットってどんなところ？

小川パレットに移転する小平市男女共同参画センター“ひらく”

“ひらく”登録団体はこういう活動をしてきました

小川パレット
Ogawa Palette

小川パレットとは

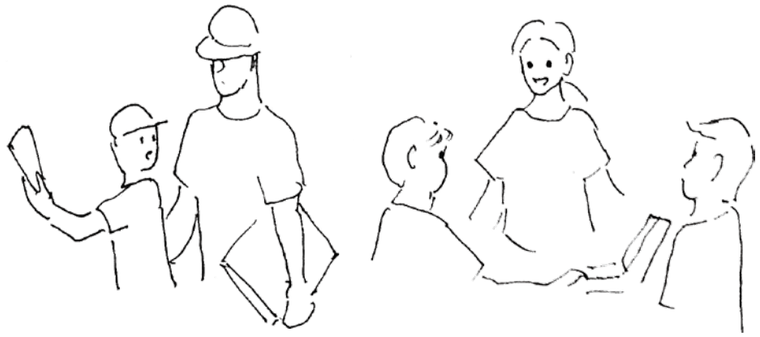
西武拝島線・国分寺線小川駅に隣接する小川駅西口再開発ビル内の4・5階に小川駅西口複合施設（小川パレット）として、小川西町図書館、小川西町公民館、小平市男女共同参画センター〝ひらく〟、小平市民活動支援センターあすぴあの4つの機能が移転します。また、西部出張所も同じ建物内に移転します。

複合施設であるため、出張所を除く4つの機能に個別の部屋はありません。多目的室・和室などの部屋は、団体が小川パレットに登録し、公共施設予約システムで予約して使います。小川パレット（小川西町公民館含む）の定期利用団体は、部屋割り調整会議を経て部屋を使います。建物内には、開架書架、ティーンズコーナー、キッズスペース、交流スペース、印刷室、マガジンカフェ、防音スタジオなどがあります。

令和元年度から、前述の4つの機能の利用団体などを対象とした市による聞き取り調査やワークショップが何度となく開催され、多くの市民は複合施設についての希望を述べてきました。

私たち男女共同参画推進実行委員会では、新しい施設「小川パレット」で〝ひらく〟と登録団体は何ができるだろうか、と考えました。そこで、登録団体の成り立ち、楽しかったこと、工夫したこと、移転後にしてみたいこと等々を書いた原稿を載せることで〝ひらく〟を支えよう、ということになりました。

これまで活動してきた団体も、これから何かをしたいと思っている人たちも、そして、ふらっとやって来た人たちも、一緒に意見を出し合いながらつくっていく、そういう自由な場所に「小川パレット」がなってほしいと思いながら、広報誌『ひらく』59号をつくりました。



「絵の具は、使うか使わないかは別として、最初からパレットに全部の色を出しておきなさい。」これは、小学校時代の図工の先生の教えです。出された色を見ていると色々な発想が浮かんだり、思わず使ってみたくなったり、そんな思いが込められていたのかも。

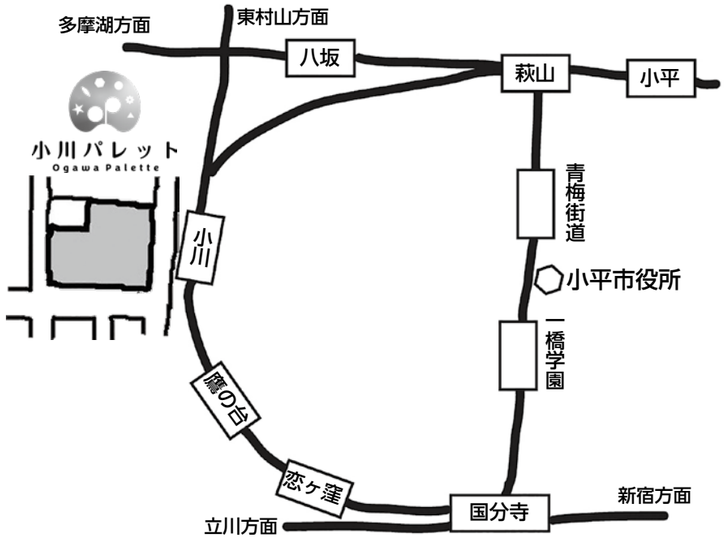
小川パレット移転後も、立ち寄った方々、受け入れたい各団体、うまくパレットの上に彩られるといいなぁと思っています。

国際婦人年を契機に「平等・開発・平和」を会の理念とし1979年より活動を開始。性別などにより異なる扱いや不利益を受けない、ひとりひとりが尊重される社会、だれもが主体的に行動しあらゆる分野においてジェンダー平等な社会になったらいいですね。

女性相談窓口設置、男女共同参画推進条例、男女共同参画週間の懸垂幕、男女共同参画都市宣言など、市と進めてきました。さらに発展的な施策実現に向け、ともに取組んでいきましょう。

《小川パレットへのアクセス》

小平市小川西町４-16-１　４・５階（受付は４階）
電話：042-348-2112（男女共同参画センター“ひらく”）
西武拝島線・西武国分寺線 小川駅西口 徒歩１分



2002年中央公民館「女性のための政治学」受講後に、住んでいる地域をもっと知りたいとのことから、2003年に活動をはじめました。当時最年長の方から「小平のことを知るなら小平市議会を傍聴するのが一番いい」との提案を受け、2003年６月より傍聴。傍聴後の意見や感想をまとめた傍聴だよりは、年４回発行、最新号94号は10月に発行しました。

2027年４月は統一地方選挙、小平市では市議会議員選挙があります。ぜひ投票にいきましょう。

小平市女性のつどいの学習グループとして1986年より活動。「つたえたいことといっぱい」と題して、戦争の実体験を語る講演会などを開催。これまでのべ135名の方に講師をつとめていただきました。戦争を体験していない世代もだんだん高齢になってきています。戦後80年を経て、語り部も少なくなる中、伝える方法も工夫が必要です。平和はジェンダー平等への一番の近道と考え、幅広い世代の方々と、活動を続けていきたいです。

《〝ひらく〟利用登録団体》

小平市女性のつどい

「平等・開発・平和」をテーマに
男女共同参画社会の実現をめざして
活動しています。

メール　kodairatsudoi@gmail.com

小平市女性のつどい 平和学習会

平和の大切さを、日々つたえ続けたい
学習活動 40 周年を迎えました。

連絡先　080-5425-1812
メール　smyu-1315@ezweb.ne.jp

政治・知りたい、確かめ隊 市民と市議会をつなぐ

市議会は年４回、６月・９月・12 月・３月に定例会が開催されます。一緒に傍聴しませんか。

連絡先　090-8043-2148
メール　seijishiritai@gmail.com

こだいら DV 防止ネットワーク

『ドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）』は夫婦や恋人の間の暴力のこと（肉体的・精神的・経済的）。DV を防ぎ、理解を広げ、被害者支援につなげたいと活動しています。
毎月の定例会の他、不定期に DV 関連のおしゃべりをする会「DaVeり場」を開いています。

メール　kdairapnet@gmail.com

新日本婦人の会 小平支部

新日本婦人の会は、国連ＮＧＯに認定されている女性団体です。

連絡先　042-344-4014（TEL&FAX）
　　10：00 ～ 16：00（月・火・水・金曜日）
メール　shinfujinkodaira@gmail.com
Ｈ　Ｐ　http://www.shinfujin.gr.jp

NPO 法人小平市民活動ネットワーク

市民活動を応援・支援する団体です。
・情報紙「連」の発行
・あすぴあの管理運営
・交流会の開催　など

連絡先　090-4391-4910
メール　info@kodaira-shimnet.jp

朗読は声に出していろいろな作品を読みますが、内容を深く理解して表現しようとすることは、脳の活性化に役立つので、アンチエイジングにぴったりです。80歳を越えても元気に楽しまれている方が多いです。一生懸命練習して聞いていただく発表会は緊張しますが、達成感があります。ご興味のある方はぜひご一緒にやりましょう。

私たちひだまりが喫茶やその他の活動の中で一人一人みんなで心掛けているのは、ひだまりに来られる方々の誰に対しても積極的に声かけをすることです。

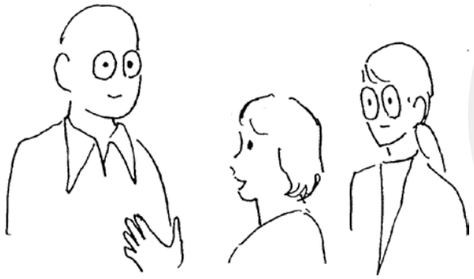
そこから様々な繋がりが生まれて、みんなが自然に友だちになれます。なので、ひだまりにはお客様とスタッフの垣根がほとんどありません。

そしてそれがひだまり全体の温かい雰囲気を生み出す原動力になっています。小川パレットにもひだまりの温かさを届けられたら嬉しいですね。

家庭内暴力（DV）をなくそうと、地域密着で活動してきた小さなグループです。自主学習からスタートし、公民館の奨励学級やいきいき協働事業、民間の助成金などを使いながら20年近く活動しており、市民活動支援と深くつながってきました。また、DVは社会構造の問題であり、ジェンダー平等の実現と切り離せません。

小川パレットが複合施設であることを強みとしつつ、誰もが安心して訪れることができる場所になることを強く望んでいます。





人権を無視した人口政策のビデオ（カナダメディア制作のものを津田塾大学公開講座「女性学」で視聴）を見た私たちは、インドだけの問題ではない、日本も他の国も…とおしゃべりを始めました。だから、団体名は「インドな」としました。男女共同参画推進条例・自治基本条例（男女共同参画の条項あり）がある小平市は、条例づくりに市民が関わった全国でも珍しいまちです。市民と市役所の人たちが「生きやすいまち」づくりに一緒に参加するまちです。これからも私たちの団体は、以上のことを忘れずに活動を続けます。

《〝ひらく〟利用登録団体》



みんなデパート ～ Happy hanaco party ～



デパートのように楽しい素敵が集う場所。地域を盛り上げたいみんなとハンドメイドで頑張るママたちのイベントを東部公園を中心に行っています。「みんデパ」で検索ください。

メール　minnadepart@yahoo.co.jp

産後、ハンドメイドで起業するママたちを集めて、別々にマルシェを開催していた現事務局の２人が、10年前に大規模イベントを行いたいと意気投合し、イベント名を「みんなデパート」に。イベント前には必ず説明会を行い、参加者同士が出会い交流が生まれることが楽しいです。生き生きと働く「ママ」の姿を家族が見ることができ、協力してくれる「パパ」も増えました。イベント時のお手伝いがママ友からその10代の子どもたちとなって、とても嬉しいです。話し合うリアルな場所があれば、アイデアが生まれる。「小川パレット」が誰でもウェルカムで、明るく楽しい場所になるよう願っています。

精神保健福祉ボランティアの会 ひだまり

障害のある人もそうでない人も、ともに支えあって生きることを願い、精神保健向上と会員相互の親睦をはかることを目的に、ボランティア活動を行っています。

※ボランティアメンバー募集中！

子ども∞幸せ円卓会議 in こだいら

子どもと子どもに関わる人すべてが、地域で幸せに暮らしていくために、学び・対話や遊びの提供を他団体と協力しながら行っています。

メール　inko5iwa@gmail.com

鈴の会

年１回の発表会に向けて、発声・滑舌の訓練などの研鑽に励み、朗読の勉強をしています。

1962年10月19日に結成。「ポストの数ほど保育所を」「結婚退職や30歳定年制に反対」「狂乱物価から暮らしを守ろう」と、全国で運動を広げてきました。国際婦人年（1975年）を契機に女性の共同がひろがりました。現在「核戦争の危機から子どもと暮らしを守ろう」という強い願いや、物価高騰などの生活苦を打開するため頑張っています。2003年、新日本婦人の会は国連経済社会理事会の特別協議資格をもつ国連NGOに認証され、女性平和基金を活用して世界の女性との交流・連帯を広げています。小川パレットには小平元気村おがわ東のように“ひらく”の個別の部屋を希望します。

朗読サークル　ひびき

毎月第３土曜日に“小川元気村おがわ東”や男女共同参画センター“ひらく”などで講師の指導を受けながら朗読を楽しんでいます。
年１回発表会も開く予定です。
いつでも見学にいらしてください。

インドな人口問題を考える会

人口問題はインドだけではない。
ココから他の問題も考える団体。
物々交換もしています。



ひらくの書棚

『結婚の社会学』

阪井裕一郎　著

結婚の歴史が書かれているが、庶民の結婚は実に自由であったようだ。明治時代、主にドイツをモデルとして国の近代化をすることになり、それまで武士階級にとって必要だった「家の存続のための結婚」が一般的になった、と言う。事実婚、選択的夫婦別姓など結婚の形や海外の例についての記述もある。著者は言う。「社会のあり方や人間の行動を解明するために常識を疑うのが社会学」。読書案内というページの文献リストも豊富。



ちくま新書　1000円＋税

『BUTTER』

柚木麻子　著



実際の事件をモチーフにした小説。贅沢な料理を愛する、連続婚活不審死事件の容疑者。彼女の言葉は、対峙する女性記者の価値観を大きく変貌させます。圧倒されるのは真似したくなるほど美味しそうな料理の描写。しかしその裏で「適量とは何か」を深く問いかけてきます。「そのとき食べたいものを食べること＝悪いこと」という思い込みが消え、食べることは自分を守るセルフケアだと教えてくれる一冊。「女だからこうあるべき」という息苦しさを感じている人にこそおすすめです。

河出書房新社　950円＋税

『バッタ博士の異常な愛情』

前野ウルド浩太郎　著

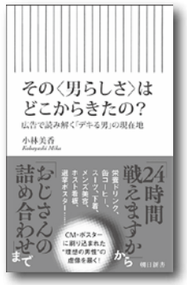
著者は昆虫学者（通称：バッタ博士）。前書きにあたる「はじめに」の章で、「この本は婚期を華麗に逃し、独身の境地に達した45歳男性である著者が、サバクトビバッタについての研究過程で培った解析能力を武器に、己の奥底に封印され婚活の黒歴史を読み解き、各エピソードからなぜ失敗に至ったのか掘り下げ、問題を浮き彫りにしつつ、改善点を考察する物語である。」と書く。付録対談として、著者の旧知の女性（婚活経験者。39歳で結婚。子どももいる。）と著者との対談があり、他者による考察も取り入れている。



光文社新書　900円＋税

『その〈男らしさ〉はどこからきたの？ 広告で読み解く「デキる男」の現在地』

小林美香　著



CMやポスターなどの広告で描かれる男性、選挙ポスターなどの歴史から、どんな男性像が求められてきたのか。その歴史を追いながら写真を交えて、著者の女性目線から書かれている一冊。最終章では「その〈男らしさ〉はどこへいくの」というタイトルで、2人の教育者と医師の目線でこれからの課題などを考える。

朝日新聞出版　900円＋税

「女性の休日 THE DAY ICELAND STOOD STILL」上映会

女性の休日 THE DAY ICELAND STOOD STILL

8月30日（日）小平市福祉会館　主催：「女性の休日」上映実行委員会

世界的に男女平等を求める運動が勢いを増してきた1975年（国際婦人年）6月20-21日、全国から約300名の女性たちが集まったアイスランド女性会議にて決起を署名。準備期間を経た10月24日、アイスランド全女性の90%が、職場や家庭にて一切の仕事を放棄したストライキ（ストライキと言わず「休日」となった理由は映画参照）を実施した。　《映画「女性の休日」オフィシャルサイトから》

この集会がなぜ成功したのか。彼女たちがそれぞれの事情を考えてもなお、これから生きていくために、この「休日」をどうしても欲しいと思ったからだろう。

女性の一日は様々な雑用と、家事と育児と、そのほかに生きていくための経済活動と、どれも大切で、とても一言では説明できないことでできている。だから、女性は休めない、体は疲れる、頭も疲れる、でも社会はわかってくれない。このままでは私たちは自分の頭で考えることもできず、生きていることの喜びも十分感じることもできず、疲れ果てて死んでいくのか。こんなこと、自分のためにも愛することもたちのためにもよくない。

だから今、女性の休日を要求する。休んで、心も体もリフレッシュして、明日のためのエネルギーを蓄えて、また動き出そう。女性たちに休日を与えるために、社会は何をしなければいけないのか、男性と同じ労働条件、教育環境、福祉制度、変えなければいけないことは山ほどある。女性たちが、休日が欲しいと思ったことで世の中はやさしくなり、人々は生きることの素晴らしさを実感できる。

ひらくの目

独立行政法人　男女共同参画機構（JGEPA：ジーパ）

令和８(2026)年４月、独立行政法人　男女共同参画機構（JGEPA：ジーパ）が発足しました。令和７(2025)年度通常国会（第217回国会）において成立した独立行政法人男女共同参画機構法に基づく施設です。 2025年度まで国立女性教育会館（NWEC：ヌエック）の果たしてきた役割を継続し、改正男女共同参画社会基本法による施策等も追加しています。男女共同参画に関する施策を総合的に行う「ナショナルセンター」であり、各地の男女共同参画センター関係者や地域や学校に向けて研修を行っています。オンデマンド研修や、アウトリーチ研修などがあります。埼玉県の武蔵嵐山駅近くにあり、施設内には、情報ライブラリーがあり、テーマ展示（2026年春季の展示は、10年延長された女性活躍推進法関連展示。秋季の展示は、成立から25年経過したＤＶ防止法関連展示）もしています。

JGEPA 独立行政法人 男女共同参画機構 Japan Gender Equality Promotion Agency

表紙について



撮影：長塚 秀人

水は人間の生活のみならず、その生命をもつかさどるためになくてはならないものです。その水は下水処理をしたものも含め、自然の水循環によって私たちのもとに送り込まれます。下水道は文字どおり命の道です。すべての人間が心地よく安心して生きていくための大切な道をアピールするため、ふれあい下水道館にある下水道管を中心に、迫力のある写真をどんと真ん中に据える構図にしました。

皆さんの声をお寄せください。

メールアドレスや二次元コードなどからお寄せください。

●市民協働・男女参画推進課へメール
kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp

広報誌ひらくはココにあります。

広報誌『ひらく』のバックナンバーはこちら

市役所、東部・西部出張所、男女共同参画センター“ひらく”、公民館（11館）、図書館（11か所）、地域センター（19館）、大学（6か所）、福祉会館、市民総合体育館、児童館（3館）、市内保育園、幼稚園、健康センター、健康福祉事務センター、郵便局（17か所）、ふれあい下水道館

小川町	手作りクッキーの店 歩、商工会館、JA 東京むさし、小平警察署、小平消防署小川出張所、和食処 楠
小川西町	たましん小平支店
小川東町	ギャラリー青らんぎ
上水本町	アトリエ・パンセ
学園西町	ビューティーサロン サンローズ、美容室ヘアーグラシュ、ヘアーサロン サンライズ、笹間住宅資材、学園接骨院、国際交流協会、しらき鍼灸治療院
学園東町	梅の里、りそな銀行小平支店、宮鍋園本店
仲町	小平消防署
美園町	カフェラグラス、ルネこだいら
大沼町	ガスミュージアム
花小金井	公立昭和病院、小平福祉園

編集後記

●今年度より実行委員になりました。『ひらく』を通して小平市の魅力を深掘りできればと思います。（K）

●ゆずりあって、仲よく使おう、小川パレット。SDGs、DEI、男女共同参画。（Z）



森山先生（右端）とゼミ生のみなさん

kodaira no hito
こだいらのひと

ヤングケアラーを支援する学生グループ
通称 こみっとプロジェクト（白梅学園大学）

子ども学部に子ども学科、家族・地域支援学科がある白梅学園大学ではさまざまな機関とかかわり合いながらヤングケアラーを支援する“こみっとプロジェクト”という名前の活動が始まっています。森山千賀子先生のゼミ（３年生と４年生）を訪ねました。

大学の周辺には2012年から活動してきた（会報「小平西のきずな」も発行）小平西地区地域ネットワーク（以下、小平西ネット）があります。ＮＰＯ、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関わる人達で成り立ち、「お互いに顔が見える人間関係が豊かな地域づくりにつながる」ことを大事にしています。コミュニティサロン「ほっとスペースきよか」「中学生勉強会（通称：わかった会）」等が地域内で開かれていて、高齢者も大人もこどもたちも学生も誰もが交流できる場所として知られています。

白梅学園大学ではヤングケアラー等に関する調査研究を２回実施しました。それを基に「ケアラーサロンin白梅」ができ、以前からある小平西ネットと地域にある２つの地域包括支援センターとが連携して“こみっとプロジェクト”ができあがりました。設立趣意書には「小平市民や小平市で働き学ぶ人たちが、ヤングケアラー等の課題に関わり合える地域活動を行いたいと考えます」とあります。いままであった活動と新しい活動とが一緒になって、住みよい地域づくりに結びつくことと思います。

学生のみなさんは、大学の講義で「傾聴」などのコミュニケーション技術を学び、大学や地域の団体が主催するこどもを対象としたバーベキューやハロウィンなどのイベントにサポーターとして参加します。困ったときにはキャンパスソーシャルワーカー、カウンセラー、学生健康支援室、学生課のどこにでも相談することができます。「ヤングケアラーは、見えにくいが、身近にあります」と森山先生。これからは、外国籍の親子の問題も出てくるだろう、というお話でした。

《ゼミの学生の声》

- 出前授業に参加して、ヤングケアラーが見えるようになってきた
- 普通の会話を通して、関係を作っていけるとよい
- 家庭内の事情だから、閉じていて見えにくいが、自分ならどんな行動ができるのか考えた
- 相談に一緒についていくとか、その子を一人にしないことが大切だと思う
- きょうだい児の問題に関心がある
- アラジン*主催のハロウィンに参加した。こどもたちが安心できる環境を作れたらと思っている
- アラジンでアルバイトをして、自宅に伺い、お弁当を届けたり、宿題を見たりした
- 児童養護施設でアルバイトをした
- こどもたちの話を聞く、子に寄り添うことを意識した
- 福祉の現場を経験したい
- 地域包括支援センター小川ホームが開催する「おがワンフェスティバル」で、ヤングケアラーについて伝えるブースを出展した

《森山先生の印象的な言葉》

- ヤングケアラーの負担の軽減をはかることが大事
- 受援力を持つ社会は生きやすい社会
- 男女平等の考え方が大切

＊**アラジン**とは…ＮＰＯ法人介護者サポートネットワークセンター・アラジンの略称。「介護で人生や仕事をあきらめない社会を実現すること」をビジョンとしている。

東京都ホームページ
【ヤングケアラーのひろば】スペシャルムービー
https://www.young-carer.metro.tokyo.lg.jp/special/

ようこそ男女共同参画センター“ひらく”へ 知る・伝えるワーク

第１回　５月24日（日）９:30～11:30 小平市中央公民館
第２回　６月７日（日）９:30～11:30 小平市男女共同参画センター“ひらく”
第３回　７月25日（土）９:30～11:30 小平市中央公民館

講師　**齋藤 啓子**さん（コミュニティデザイナー）、**花崎 攝**さん（シアター・プラクティショナー）

“ひらく”に関心のある市民が集まりました。第１回は、小川駅西口複合施設「小川パレット」についての説明の後、演劇手法を使って、こんな施設だったらいいと思うことをあげました。第２回は、内覧動画を視聴後、ココが男女共同参画センター“ひらく”だとわかるための工夫を考えました。第３回は、“ひらく”の役割や機能が発揮されるにはどのようにしたらよいか、について話し合い発表しました。「小川パレット憲章をつくる」「男女共同参画の歴史を展示する」「男女共同参画だとそれとなくわかる展示」「人権問題だとはっきりわかる展示」等々、活発に意見が出ました。





ひらく
第59号
令和８(2026)年
10月発行

発行/小平市地域振興部市民協働･男女参画推進課
☎ 042-346-9618　FAX 042-346-9575
✉kyodo-danjo@city.kodaira.lg.jp

企画･編集/小平市男女共同参画推進実行委員会
伊藤 純子　小林 怜悧　笹尾 かをる
谷原 裕子　柳下 貴美子

小平市男女共同参画センター“ひらく”

令和８(2026)年10月末まで
〒187-0031　小平市小川東町４－２－１ 小平元気村おがわ東 ２階
042-348-2112（電話受付時間　午前９時30分～午後５時）
○開館時間　午前９時～午後10時
○休館日　火曜日

令和８(2026)年11月から
〒187-0035　小平市小川西町４－16－１　４･５階 小川パレット内
042-348-2112（電話番号は変わりません）
○開館時間　午前９時～午後10時（開館時間は変わりません）
○休館日　毎月第３木曜日、年末年始

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るための広報誌です。公募市民が企画･編集をしています。
再生紙を使用しています。